

過去の生活を知る上で、文書はかけがえない情報源といえます。しかし生活道具など、具体的な物を見ることにより、文書の意味が立体的に理解できることがよくあります。

「百聞は一見にしかず」といいます。今回は教育委員会庁舎三階にある民俗資料館の展示資料を少し紹介しましょう。

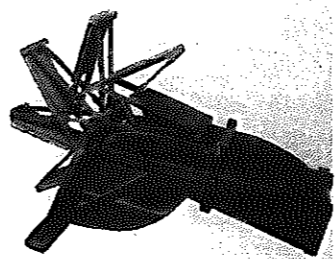
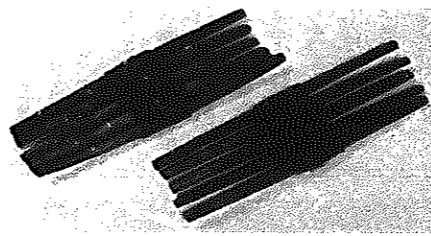
機織りと わら細工

昭和二十年ころまでは、農家の冬場の仕事は男はわら細工、女は機織りと相場が決まっていた。衣類の原材料の綿花栽培は、必ずといってよいほど、この農家でも行われていました。秋に収穫すると糸を紡ぎ、機織りで衣服に仕上げる。これは現金収入というよりも、自家消費でした。

当時、衣類は貴重品でした。あまり良い例ではありませんが盗難の被害届に「衣類」がよく見られるので、なかなか購



⑫ 民俗資料館



農具

現在は機械化農業ですが、明治以前は裸手農業でした。農具も木製品が主体で、動力源は人力に頼っていました。ことに白根は低湿地でしたから、川の水が増すと田に水がたまりやすく、そうした深田での農作業は困難を極めました。そこで作業効率を高め、労力を軽減するために田下駄や舟をはじめとするさまざまな農具が使われたのです。民俗資料館にはたくさん農具が展示されています。乾田地帯には見られない独特な器具に、先人たちの苦勞の跡がしのばれます。

今週の日 代学、習生

教育委員会社会教育課
佐藤 正 則

このシリーズに、市民がどう考えているかを載せては、というご意見をいただきました。そこで、成人式と市民大学講座の際に毎年行われているアンケートの一部を紹介してみたいと思います。

生きたいとき

本市では毎年、新成人の八〇％に当たる三百人以上の人が式に参加しています。昨年のアンケートでは、どんなときに生きたいと感じますかという問いに対し、

- ・ 楽しい仲間や友人といるとき 28%
- ・ 親しい仲間や友人といるとき 29%
- ・ 仕事や職業に打ち込んでいるとき、恋人といるとき 各11%

となっており、私生活を大切にす

活動の理由は？

市民大学講座は、中央公民館の主催で毎年秋に行われているもの

で、今年で十回目を迎えます。いつも五十人以上の応募者があり、盛況です。その際のアンケートでは、一生を通じて仕事や日常生活に必要なことを学んだり、スポーツや芸術文化に親しんだりしようとする理由を挙げてもらいました。

- ・ 知識を高め趣味を豊かに 27%
- ・ 自由時間の有効活用や老後を有意義に過ごす 21%
- ・ 社会の進歩に遅れないように 18%
- ・ 親睦を深め友達を得る 16%
- ・ 健康・体力作り 11%

この結果から、心豊かな生活が望まれているといえそうです。またどのような方法で学習したいかという問いに対しては

- ・ 公民館等の講座や教室で 44%
- ・ 地域や職場のグループ・サークルで 21%
- ・ 民間の講座や教室で 13%
- ・ 自分一人での学習 13%

という結果でした。身近なところでの学習活動が望まれていると見てよいのではないのでしょうか。

秘密の遊び場でゾーツとした思い出

私の思い出 あの時この場所

語る人

松沢 隆さん
(桜町1-39歳)



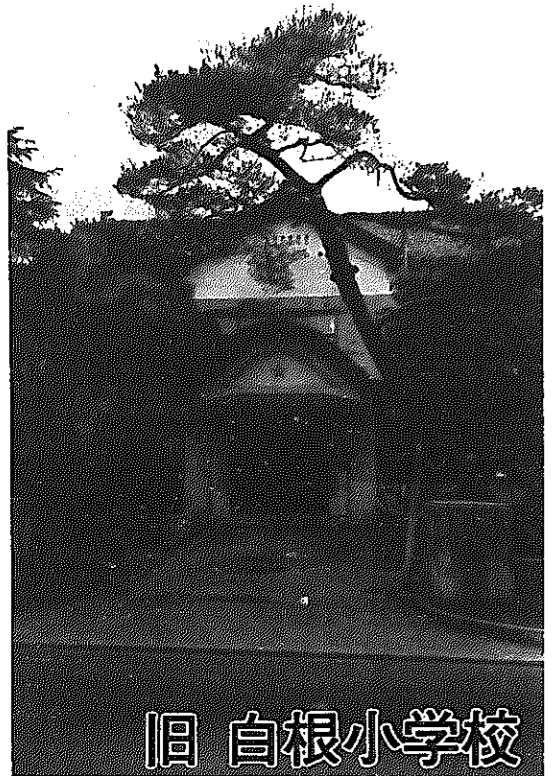
私が小学校五年生のころ、旧白根小学校には、北校舎がありました。北校舎は、教室として

は使用せず、不用になった机やイスが置いてあり、物置のようになっています。

先生たちからは、そこへ行っ

てはいけないと注意を受けてい

ました。行くと言われると



旧 白根小学校

私の一冊 No.4

「平和の発見」
花山信藤

笠原幸子さん
(上鷺ノ木・61歳)



大東亜戦争の戦犯として、

そして踏み締めた故国の大地

やがて大地の中に帰して行く。

私の思い出 あなたの心に残るあの時の思い出をお寄せください
あなたの愛読書をご紹介ください ▶あて先 白根市役所広報広聴係 (〒950-12
白根市大字白根1235・☎373-2111(内333) 皆さんの便りをお待ちしています

原稿募集